

あなたも高教組へ

2面 ・人事評価制度アンケート
・特別支援教育の現場から



第444号
2019年
5月22日

発行所
静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

人事評価制度の賃金リンク強行 ～高教組とは今後も協議継続～

春闘教育長交渉



新年度が始まり、多くの課題があるなか、高教組は4月26日、春闘教育長交渉を行いました。高教組からは深田委員長以下8名が参加し、県教育委員会は木苗直秀教育長、教育部長、教育監、理事、担当課長等が交渉に応じました。

基本賃金、技能員採用について

「人事委員会の勧告を尊重しつつ、国や他の都道府県の動向を注視し、適切に対応したい」と型通りの回答。
「正規職員での技能員採用の再開については、現在のところ困難」との回答も従来と変わらず。19春闘では賃上げ率は前年同期を下回っており、人事院勧告にむけ、署名や要請などを強めていく必要があります。

人事評価制度の賃金リンク強行に関して

「本格実施にあたっては、管理職を対象に説明会を実施し、公正・公平な評価の実施、及び評価結果の教職員の人材育成へ適切な活用を求めた」と回答。また、「学校は

また、割合や賃金の数字を明示しないのか、という質問には、高教組との協議を続けるとしながらも、公表は明言しませんでした。

「多忙解消」の具体的な施策について

「教職員定数について、文部科学省に『静岡県内の提案』としてその改善を要望している」ことを強調。教育長は、「全国教育長会議の中で国に要請するよう呼びかけた。みなさんの要望に近い」と応じました。

学校司書配置について

「事務職員が司書業務に従事する時間の確保を校長に働きかける。司書担当業務について調査する。」と今までと同じ回答。図書館業務担当として事務職員は加配され、学校司書配置は国から義務化されているはず。一方で私費会計処理など事務の業務を増やし、図書館業務を減らすのは、学校司書の必要性を理解していない姿勢の反映といえます。司書担当希望の尊重、司書としての採用

を求め、協議の継続を強く求めました。
任期付職員について 任期付職員については、6月議会に条例案を提出。制度の詳細や運用について、高教組とは教育総務課長交渉や労使協議会を行うとしました。協議の中で講師が不利にならない制度にするよう要求していきます。
一定年延長およびハラスメントの防止に関しては、国の法改正を注視するとしています。
交渉で明らかになった本年度の課題解決に向けて協力をお願いします。

働く者の団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそうーを基本スローガンに1日、第90回メーデーが開催されました。駿府城公園の静岡中央メーデーの250人、浜松城公園の西部地区メーデーの400人をはじめ、県内8カ所で1250人が参加しました。高教組からも各地で十数人が参加しました。

この春から、突然、毎朝、出勤前に走りだしたんです。休日、どこかに出かけて、走ったりも。とにかく、毎日、走り続けてきたんです。継続は力なり、と意地になって▼で、教え子たちにも自慢したあげく、一ヶ月あまり経ったころ、膝が痛くなったというオチ。これまで運動など特にしたこともなかったのに、無理しすぎたようです。泣く泣く、休足日をとることにしました。とりあえず、膝がなおるまで▼きつと、この痛みがなくなるころには、同じ負荷がかかっても大丈夫なように、体は以前より強くなるはず。そう、超回復理論▼毎日走っていると、毎日走らないと気がすまなくなってしまう。実はマジメなようです。自分で決めたことには、一日でも休むと罪悪感におそわれるほど。これは、「毎日病」とでもいうのでしょうか。毎日続けることは、たしかにいいことですが、いつしか毎日続けることが目的になり、質が落ちて、そのまま続けてしまうんです。さらに、疲労がたまり、超回復のための休養もとれず、あげくのほかに故障、まさに悪循環です。だから、そんなときには、思い切って休むんです。あの文部科学省も、部活は、一週間のうち、平日一日、土日はどちらか、休養をとるべし、とおっしゃるくらいです。もともと強くなるために、休む勇気を出すことにします。今はサボっているわけではなく、積極的休養中なんです▼教え子たちよ、絶対、また走り出すから。週二日は休むけど。

主張

同一労働同一賃金

長年の組合の要求が実り、来年度から臨時的任用教職員、非常勤職員の待遇が大幅に改善されることになりました。臨時的任用は常勤職員の欠員が生じた場合の緊急、臨時的な場合に限るとし、「同一労働同一賃金」原則のもと、定数内常勤講師は不適正、任用の改善を求める通知を総務省が出しました。6月の静岡県議会で条例化される見通しです。

徐々に 定年制常勤職員に

静岡県では、予算配分の関係で、定数内常勤講師を「定年制常勤職員」にはできないので、当面は正規の「3年の任期付職員」として採用

臨時的任用職員を 厳格化・待遇改善

し、徐々に定年制常勤職員とするとしています。任期付職員は正規ですので、給与は定年制常勤職員と同じ2級。諸手当もすべて同じになります。非常勤講師について 2018年5月時点

また、割合や賃金の数字を明示しないのか、という質問には、高教組との協議を続けるとしながらも、公表は明言しませんでした。

「多忙解消」の具体的な施策について

「教職員定数について、文部科学省に『静岡県内の提案』としてその改善を要望している」ことを強調。教育長は、「全国教育長会議の中で国に要請するよう呼びかけた。みなさんの要望に近い」と応じました。

学校司書配置について

「事務職員が司書業務に従事する時間の確保を校長に働きかける。司書担当業務について調査する。」と今までと同じ回答。図書館業務担当として事務職員は加配され、学校司書配置は国から義務化されているはず。一方で私費会計処理など事務の業務を増やし、図書館業務を減らすのは、学校司書の必要性を理解していない姿勢の反映といえます。司書担当希望の尊重、司書としての採用

働く者の団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそうーを基本スローガンに1日、第90回メーデーが開催されました。

駿府城公園の静岡中央メーデーの250人、浜松城公園の西部地区メーデーの400人をはじめ、県内8カ所で1250人が参加しました。

高教組からも各地で十数人が参加しました。

県中央メーデーの冒頭、実行委員長の菊池仁、県評議長は、安倍政権の「働き方改革」のもと、残業隠し、年休隠しの規制の抜け穴を許さない、すべての職場に実効性のある36協定を締結し、8時間働けば暮らせる賃金を求め、協議の継続を強く求めました。

任期付職員の制度他

任期付職員については、6月議会に条例案を提出。制度の詳細や運用について、高教組とは教育総務課長交渉や労使協議会を行うとしました。協議の中で講師が不利にならない制度にするよう要求していきます。
一定年延長およびハラスメントの防止に関しては、国の法改正を注視するとしています。
交渉で明らかになった本年度の課題解決に向けて協力をお願いします。



この春から、突然、毎朝、出勤前に走りだしたんです。休日、どこかに出かけて、走ったりも。とにかく、毎日、走り続けてきたんです。継続は力なり、と意地になって▼で、教え子たちにも自慢したあげく、一ヶ月あまり経ったころ、膝が痛くなったというオチ。これまで運動など特にしたこともなかったのに、無理しすぎたようです。泣く泣く、休足日をとることにしました。とりあえず、膝がなおるまで▼きつと、この痛みがなくなるころには、同じ負荷がかかっても大丈夫なように、体は以前より強くなるはず。そう、超回復理論▼毎日走っていると、毎日走らないと気がすまなくなってしまう。実はマジメなようです。自分で決めたことには、一日でも休むと罪悪感におそわれるほど。これは、「毎日病」とでもいうのでしょうか。毎日続けることは、たしかにいいことですが、いつしか毎日続けることが目的になり、質が落ちて、そのまま続けてしまうんです。さらに、疲労がたまり、超回復のための休養もとれず、あげくのほかに故障、まさに悪循環です。だから、そんなときには、思い切って休むんです。あの文部科学省も、部活は、一週間のうち、平日一日、土日はどちらか、休養をとるべし、とおっしゃるくらいです。もともと強くなるために、休む勇気を出すことにします。今はサボっているわけではなく、積極的休養中なんです▼教え子たちよ、絶対、また走り出すから。週二日は休むけど。

視座

教職員人事評価制度

本格実施に、疑問、不信、不満の声が殺到

12回目になる教職員人事評価制度アンケート。約20の学校から、500人を超える回答が寄せられました。人事評価が勤勉手当に反映されることが決まった初のアンケート。記述欄には例年以上に切実な声も寄せられました。

「賃金に差を付け更に競争させて働かせて多忙化する恐れがある。」

「職場で、入試時の机の間違いなど考えられないミスが起きている。背景に、職員同士のコミュニケーション不足や他者の仕事への無関心という風潮があるのではな

「教育は個人の働きではなく、チームで動くので、個人に対する評価はなじまない。」

今回、強圧的な管理職・評価者に対する不満の声が多数寄せられ、管理職に対する評価をすべきだという声が多く寄せられました。

管理職と話しができる貴重な機会ととらえる意見は例年ありますが、評価抜きで教育について話したいという意見が複数寄せられました。

また、「今の評価は基準が曖昧だが、たくさん仕事を抱え頑張っていることがきちんと評価される(逆もしかり)組織になるといい。個人の主義・主観で評価が変わる

「評価の割合や差についてくわしい説明もなく」

「管理職に思い通りにされる危険性がある。現実にパワハラ・セクハラがあつたとしても(逆にトラブルメーカーと思われ)しっかりと訴えられなくなるのではないか。」

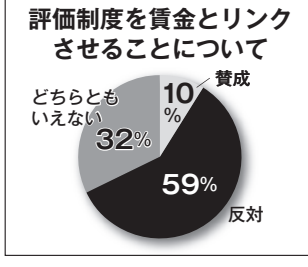
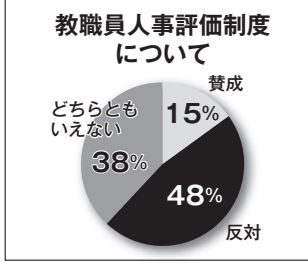
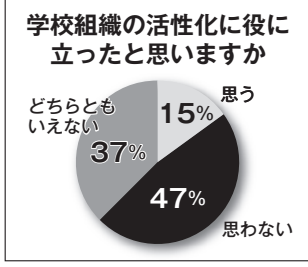
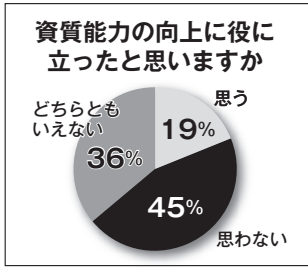
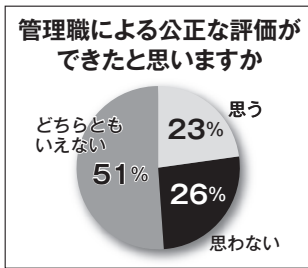
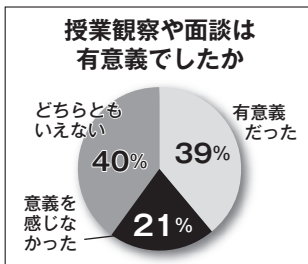
人は若かったころ、50代後半にもなれば精神的には安定すると思いがちだが、現実はいきなり、好きな人が訪れる物事は違うが、安定した生活は妄想だと気付くものだ。それでも自分の行くべき道をしたたかに切り開いて行くナタリーに共感するだろう。

賛成する意見も

制度への不信、評価に対する不信

同僚性を破壊する

管理職の評価が必要



特別支援教育の現場から 「全国の会議に出たから、自分の地域の課題がわかる」

障教部定期総会に参加して

障害児教育をめぐる情勢について、考えさせられたことを3点報告します。

「子どもから出発」を

最後に障害児学校の過密の問題です。私が以前勤めていた職場でも、体育館が使えないので体育の授業で廊下を走らせたり、パニックになった子どもがクルルダウンできる教室がなく男性教師の更衣室や廊下の隅を使ったりと、落ちていて活動できる環境ではありませんでした。全国でも、隣の教室の迷惑にならないように音楽の授業で小

実態に応じた認定に

2点目は、職場でも話題になります。重複障害学級認定可をめぐる問題です。東京では、最初に各校の重複障害学級の数が決められているため、この間、児童生徒数は激増しているにも

設置基準が必要

最後に障害児学校の過密の問題です。私が以前勤めていた職場でも、体育館が使えないので体育の授業で廊下を走らせたり、パニックになった子どもがクルルダウンできる教室がなく男性教師の更衣室や廊下の隅を使ったりと、落ちていて活動できる環境ではありませんでした。全国でも、隣の教室の迷惑にならないように音楽の授業で小

障害児教育をめぐる情勢について、考えさせられたことを3点報告します。

1点目は、昨年度の12月、中教審から「児童生徒の学習評価の在り方について」の答申がありました。その中で「観測別の学習状況を踏まえた評価を取り入れるとする」とあります。その観点とは「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」です。子どもたちの目標や評価は様々であり、一律の目

「賃金に差を付け更に競争させて働かせて多忙化する恐れがある。」

「職場で、入試時の机の間違いなど考えられないミスが起きている。背景に、職員同士のコミュニケーション不足や他者の仕事への無関心という風潮があるのではな

「教育は個人の働きではなく、チームで動くので、個人に対する評価はなじまない。」

今回、強圧的な管理職・評価者に対する不満の声が多数寄せられ、管理職に対する評価をすべきだという声が多く寄せられました。



第30回 全教障教部定期総会

石田かおり



発売元:シネマクガフィン
販売元:ポニーキャニオン

続・映画の中の教師たち 9 「未来よこんにちは」

監督:ミア・ハンセン・ラヴ
フランス・ドイツ映画

ナタリーは50代後半の、通勤の電車の中でエンツェンスベルガーを読む高校の哲学教師。生徒が政権の無策を批判する授業ポイコット運動には無関心だが、授業でも家庭でも、さらさらと仕事をこなす、才能豊かな人。

しかし、その一方で、高齢の母親が頻りに電話をかけてきたり、救急車を1週間に3回も呼んでしまうなどの、不安定な老境を迎えており、その対応に悪戦苦闘する。また、夫がいきなり、好きな人ができ、その人と一緒に暮らしたいと言いつつ、ナタリーはさばさばそれを受け止めるが、大きなショックは隠せない。1人になると涙がこぼれる。

さらに、彼女が執筆した教科書を全面的に改訂したいと出版社の若い社員から提案される。採用を増やすためカラーのイラストがふんだんにのる改訂案が示され、暗澹たる思いになる。

そんな状況下、ナタリーの教え子の大学院生フアビアンとの語り、生徒達との木陰での討論では活き活きとした表情が現れる。例

えは、ルソーを教えるが、生活を変えないことを、フアビアンに「思想と行動を一致させねば。先生は違う。」と指摘されれば、「自分の頭で考える若者を育てたいだけ。あなたはその成功例みたい」と答える。ちなみに、フアビアンは執筆しながら、田舎で小さなコミュニケーションを作りを目指している。

人は若かったころ、50代後半にもなれば精神的には安定すると思いがちだが、現実はいきなり、好きな人が訪れる物事は違うが、安定した生活は妄想だと気付くものだ。それでも自分の行くべき道をしたたかに切り開いて行くナタリーに共感するだろう。

蛇足だが、フランスの高校教科書の哲学は、原典を常に読んでいることに驚く。ルソー以外にパスカルを教材にしている場面が現れる。教師はそれらを半ば暗記しておりそれを声に出し、それを生徒はノートに書き取る。また、生徒は20人ほどしかおらず、教員の言ったことについて、さかさま質問する環境が作られている。